

大学図書館における雑誌提供の実態 ：印刷版雑誌と電子ジャーナルの比較

横井 慶子（慶應義塾大学大学院 kino@slis.keio.ac.jp）

1 背景と研究目的

大学図書館が導入する電子ジャーナル（EJ）数は近年急激に増加している。学術情報基盤実態調査¹⁾によると、平成18年度の1大学のEJ平均所蔵数は2,395種類であり、5年前の平成13年度の466種類の約5倍にもなっている。一方、平成18年度の印刷版雑誌の1大学平均所蔵数は5,309種類であり、5年前の平成13年度5,373種類と比較すると64種類減少している。またEJ導入数の増加にともない、印刷版雑誌の購読を中止する動きがある。このため大学図書館の雑誌提供・保存のあり方は、EJ登場以前と比べて変化していると考えられる。

大学図書館の提供・保存する雑誌については、各大学図書館が公表する統計や、学術情報基盤実態調査などで印刷版雑誌の所蔵タイトル数や受入タイトル数、EJの所蔵数などがわかる。しかし、タイトル数だけでは、購読中止したタイトルも継続購読中のタイトルも同様に1タイトルとして扱われる。また、同一誌が印刷版雑誌で1タイトル、EJで1タイトルある場合と、異なる印刷版雑誌1タイトルとEJ1タイトルがある場合の区別もできない。このため、図書館がカレントで提供する雑誌に占める印刷版雑誌とEJの割合や、図書館が保存する印刷版雑誌の範囲等の実態はわからない。これらの実態を把握するには、図書館が所蔵する印刷版雑誌と、導入しているEJのタイトル数、およびタイトル別の巻号を調べる必要がある。しかしそのような調査はこれまでになされていない。本調査は特定の大学図書館が提供する印刷版雑誌とEJの範囲をタイトル別に調査し、EJ導入後における大学図書館の雑誌提供の実態を明らかにすることを目的とする。

2. 調査

正確な実態を調査するため、数は少ないが、理工学系の一大学図書館が2009年7月時点で所蔵する印刷版雑誌16,113タイトル、EJ9,884タイトル（有料購読分のみ。OA誌等は含まない。）を対象とした。対象の印刷版雑誌のうち、図書館本館以外に、分館や学科図書室等で同一誌が提供されているタイトルを重複分として除き、所蔵年のデータが欠けているもの、明らかに不正確なデータであるもの（所蔵年が調査時点の2009年よりも後の発行年）を除いた結果、最終的な調査対象は15,177誌となった。EJの場合は、出版社との直接契約だけでなく、バックファイルの購入、アグリゲータとの契約で同一誌が重複して複数ある。これらは契約内容によって同一誌でも閲覧可能年が異なるため、最も閲覧可能年の長い契約内容を残し、それ以外の重複分は除いた。さらに閲覧可能年のデータが欠けているタイトルを除いた結果、最終的な調査対象は、9,121誌となった。

雑誌の提供範囲は、異なるタイトル間での比較を行いやすくするため、巻号ではなく印刷版雑誌の場合は所蔵年、EJの場合は閲覧可能年を用いて調査することとした。所蔵年、閲覧可能年ともに、最も古い年（開始年）と最も新しい年（終了年）の間を該当年間とみなし、欠号は考慮していない。同一誌が複数あったタイトルは、図書館が実際に提供できる範囲を調査するため、複数の開始年の中で最も古い年と、複数の終了年の中で最も新しい年を、該当タイトルの開始年および終了年とした。

アグリゲータが提供するEJの場合は、閲覧可能年が「最新1年は閲覧不可」などと、具体的な年が表示されていない場合があった。これらには2009年7月時点で該当

する年を設定した。たとえば「最新1年は閲覧不可」であれば、終了年は2008年とし、「最新1年6ヶ月は閲覧不可」であれば終了年を2007年とした。ただし、「最新3ヶ月は閲覧不可」は、2009年4月分は閲覧可能であるが2009年7月分は閲覧できないため、他のカレントで閲覧できるEJとは状況が異なる。このため、閲覧不可の期間が、最新1年未満のタイトルはすべて終了年を2008年とした。これに該当するタイトルは89タイトルあった。

以上の条件で抽出した、印刷版雑誌の所蔵年とEJの閲覧可能年を用いて、雑誌の提供実態を明らかにするための分析を行った。

3. 調査結果

3.1 全体の傾向

印刷版雑誌とEJの図書館での提供状態は、印刷版雑誌の場合は2713件(18%)がカレント、6736件(44%)がかつて購読していたが現在は購読中止、5728件(38%)が廃刊で提供ができない状態となっていた。一方、EJの場合は6718件(74%)が継続購読中であった。残りの2403件(26%)は、図書館が購読を中止したか、廃刊で提供できない状態のどちらに該当するかは判別できなかった。EJの方が、提供するタイトルに占めるカレントの割合が非常に高く、EJはカレント中心の提供ともいえる。印刷版雑誌とEJの継続購読中のタイトル合計9431誌中、印刷版雑誌が2713誌(29%)、EJが6718誌(79%)である点からも、EJがカレントの中心となっているともいえる。

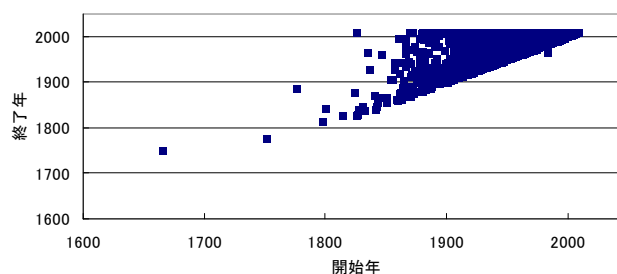
次に印刷版雑誌とEJの開始年と終了年について調べたところ、平均開始年は印刷版雑誌が1975年、EJが1992年であり、平均終了年は印刷版雑誌が1988年、EJが2007年であり、全体的にEJの方が新しい。1タイトル当たり何年分を所蔵、もしくは閲覧可能かの平均は、印刷版雑誌が13年、EJが15年であり、EJの方が2年分長く利用可能な状態であった。(第1表)

第1表 印刷版雑誌とEJの提供状況

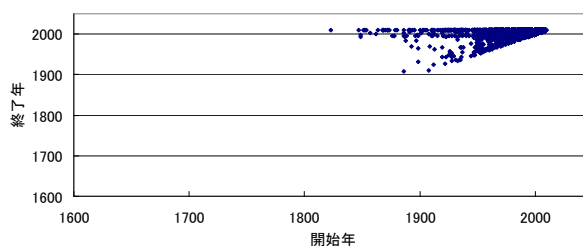
	印刷版雑誌 (n=15177)	EJ (n=9121)
継続購読中のタイトル数	2713	6718
廃刊タイトル数	5728	-
購読中止タイトル数	6736	-
平均開始年	1975	1992
平均終了年	1988	2007
平均所蔵年	13	15

印刷版雑誌とEJのタイトルごとの開始年と終了年の相関を第1図、第2図で示す。印刷版雑誌は開始年が古いものがEJよりも多く、開始年がより古い。しかしEJの中にも開始年が1900年より古いものが48件あり、そのうち22件はバックファイルであった。EJ9121件中バックファイルは273件あり、それらの平均開始年は1963年、平均終了年は2002年、平均所蔵年39年であった。

EJでも開始年が1900年に近く、古いものがあるが、これはバックファイルのタイトル273件の影響によるものと考えられる。



第1図 印刷版雑誌の開始年と終了年



第2図 EJの開始年と終了年

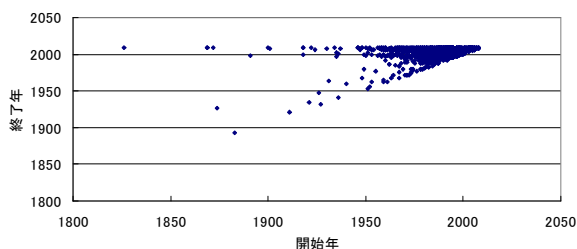
3.2 印刷版雑誌と EJ の重複タイトル

印刷版雑誌と EJ で重複しているタイトルは 1186 タイトルあり、そのうちカレントのタイトルは 1014 タイトルあった。印刷版雑誌と EJ とでの違いを比較したところ、平均所蔵年はともに約 18 年で、ほぼ同じであった。平均開始年、平均終了年を印刷版雑誌と EJ とで比較すると、ともに印刷版雑誌の方が古く、EJ の方が新しい。(第 2 表) 個別のタイトルごとに所蔵年を比べると、印刷版雑誌の方が長いものが 457 タイトル、印刷版雑誌と EJ で長さが同じものが 122 タイトル、EJ の方が長いものが 607 タイトルあった。このことから、所蔵年は印刷版雑誌が EJ よりも古い傾向があるが、その長さは必ずしもどちらかが長いとはいえない。

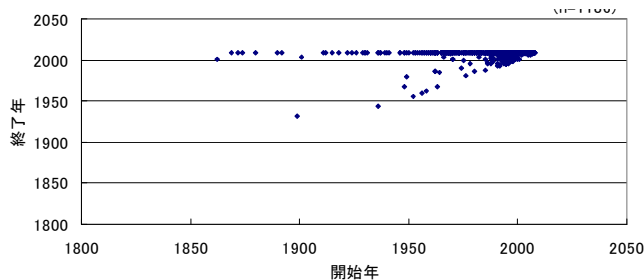
第 2 表 重複タイトルの提供状況
(n=1186)

	印刷版雑誌	EJ
平均開始年	1984	1990
平均終了年	2002	2008
平均所蔵年	18	18

タイトルごとの開始年と終了年について、印刷版雑誌と EJ それぞれの分布を第 3 図、第 4 図で示す。傾向としてはほぼ同じだが、印刷版雑誌の方が開始年の古いタイトルがやや多く、EJ における開始年の古いタイトルよりも、年がより古い。



第 3 図 重複タイトルにおける
印刷版雑誌の開始年と終了年



第 4 図 重複タイトルにおける
EJ の開始年と終了年

さらに、重複タイトルが、図書館の蔵書の中でどのような位置づけであるかを媒体別に調べるために、開始年と終了年についてさらに分析した。印刷版雑誌と EJ の開始年と終了年をタイトル別に比較し、どちらの方がより古い開始年か、そしてより新しい開始年かを調べた。印刷版雑誌と EJ とで開始年が同一の 256 件、終了年が同一の 324 件を除いた 745 件を対象に調べた結果を第 3 表に示す。

第 3 表 重複タイトルの媒体別提供タイプ

	開始年が より古い媒体	終了年が より新しい媒体		
A	印刷版雑誌	印刷版雑誌	8	0.7%
B	印刷版雑誌	EJ	473	39.9%
C	EJ	印刷版雑誌	2	0.2%
D	EJ	EJ	147	12.4%
E	同一	印刷版雑誌	4	0.3%
F	同一	EJ	226	19.1%
G	印刷版雑誌	同一	143	12.1%
H	EJ	同一	84	7.1%
I	同一	同一	99	8.3%
計			1186	100.0%

開始年がより古い媒体の方が、該当タイトルの古い号の媒体であり、終了年の新しい媒体の方が、該当タイトルの最新号の媒体である。つまり A タイプは、EJ で閲覧できる巻号よりも、印刷版雑誌の方がより古い巻号からより新しい巻号まで幅広い巻号を所蔵することを意味する。その逆に D タイプは、印刷版雑誌よりも EJ の方が幅広い巻号を閲覧できる。タイプ B は古い号は印刷版雑誌でのみ提供しているが、ある時期より後の号は EJ でのみしか閲覧できない。タイプ C はその逆で古い号は EJ で

のみ閲覧でき、新しい号は印刷版雑誌でのみ閲覧できる。タイプ B,D,F は、印刷版雑誌で提供してきたが、EJ の導入により印刷雑誌の購読を中止したタイトルに相当すると思われる。これらは新しい号は EJ でのみ閲覧でき、印刷版雑誌は閲覧できない。つまり図書館の雑誌提供が EJ のみの提供に移ることを示す。タイプ B,D,F の合計は約 72%にものぼり、図書館において EJ のみの提供が主流となっているといえる。その逆に、最新号を印刷版雑誌でのみ提供していることを示すのは、タイプ A,C,E であるが、これらは合計しても全体の 1.2%に過ぎない。タイプ B,D,F 群、タイプ A,C,E 群、そして終了年に媒体の違いがなかったタイプ G,H,I 群を構成するタイトルの傾向を調べたところ、どれも数タイトルのバックファイルやアグリゲータ契約のタイトルを含んでいたが、大多数は出版社と契約したタイトルであり顕著な傾向の違いはなかった。

4. 雑誌提供の実態

図書館で所蔵する印刷版雑誌 15177 タイトル中、約 80%がカレントでは提供されていないタイトルであった。その逆に EJ の場合は EJ9121 タイトル中 74%がカレントで提供されるものであり、印刷版雑誌全体ではカレントの提供は少ないが、EJ はカレント中心の提供を行っていることがわかった。カレントで提供する印刷版雑誌 2713 タイトルと、EJ6718 タイトルの重複分 1014 タイトルを考慮すると、カレントが印刷版雑誌のみで提供されているのは 1705 タイトル、EJ のみは 6474 タイトルである。つまり図書館がカレントで提供する雑誌の 77%が EJ でのみ利用できるタイトルということになる。また、重複タイトルの提供状況でも、提供媒体が印刷版雑誌から EJ に変わるものが主流となっていた。これらることより図書館の雑誌提供は、EJ 中心となっていく可能性が高いことが、個別のタイトル単位の提供範囲から示された。

しかし、EJ は図書館がアクセス権を購入しているだけで、印刷版雑誌のように図書館内に物理的に保存されるわけではない。EJ を永続的に提供し続けるには、アクセス権を購入し続けなければならない。途中で購入を止めた場合は、過年度分へのアクセスが必ずしも保証されるわけではなく、それまでアクセス権を購入していた巻号へア

クセスできなくなる可能性があるためである。またアグリゲータとの契約では、複数の出版社の取り扱うタイトルを選定して構成されたタイトル群へアクセスできるが、一般的に、頻繁に構成タイトルが変更されると言われており、特定のタイトルに永続的にアクセスできない可能性がある。このようなアグリゲータが取扱うタイトルは 2116 タイトルあった。一方、バックファイルは EJ を買い切る形であり、永久的なアクセスが保証される。本調査で対象となった EJ9121 タイトル中でもバックファイルは 273 タイトルのみである。つまり、残る 8848 タイトルは永久にアクセスできる保証はないということである。また印刷版雑誌と EJ との重複タイトルの中で、カレントで提供される媒体が EJ のみの 846 タイトル中、バックファイルは 13 タイトルのみであった。

このように、図書館に物理的に保存されず、永久的にアクセスできる保証もない EJ が、カレントで提供される雑誌の大部分を占めるということは、これまで大学図書館が担ってきた雑誌の保存機能が失われつつあると考えることもできる。

本調査は理工学系大学の一大学の、特定の一時期の蔵書を対象としており、きわめて限られたものである。同じ調査を複数年行い、経年変化を見ることで図書館の雑誌提供の変化をより正確に理解することができると考えられ、今後の課題としたい。

また同規模大学にも同様の調査を行い、比較することで、大学図書館の雑誌提供の変化をより一般化して調べることができると考えられるので、これも今後の課題としたい。

<参考文献>

学術情報基盤実態調査.

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>

(Last Accessed 2009-08-31)